取扱説明書

K970 II
K970 II Rescue

本機をご使用になる前に、この取扱説明書を注意深くお読みいただき、内容を必ずご確認ください。

Japanese

シンボルマークの意味

本機に表記されるシンボルマーク

警告!本機の使用には危険が伴います。不注意または不適切な使用をすると、使用者や周りの人が重傷や致命傷を負う危険性があります。

本機をご使用になる前に、この取扱説明書を注意深くお読みいただき、内容を必ずご確認ください。

身体保護具を着用してください。「使用者の身体保護具」の項の説明を参照してください。

この製品は EC 規格適合製品です。

警告!切断の際には粉塵が発生し、人体に吸い込まれると危険です。適切な呼吸マスクをご使用ください。排気ガスを吸引しないようにしてください。必ず換気を十分に行ってください。

警告!キックバックは突然かつ急に、勢いよく発生し、命にかかわる傷害を発生させることがあります。本機を使用する前に、本書の説明をよく読み、理解してください。

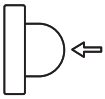
警告!カッティングブレードから発生する火花から可燃物（ガソリン、木、枯草など）に引火する可能性があります。

ブレードにいかなるヒビや破損もないことを確認してください。

円形鋸ブレードは使用しないでください。

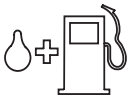
チョーク

エアパージ



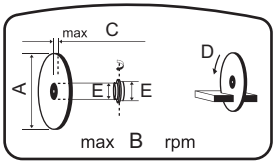
デコンプバルブ

給油、ガソリン／オイル混合



始動方法説明ラベル 始動方法は「始動と停止」を参照してください。

カッティング装置ラベル



A = カッティングブレード寸法
B = 出力シャフト最高回転速度
C = ブレードの最大厚さ
D = ブレードの回転方向
E = ブッシング寸法

環境に対する騒音レベルはEC指令に準拠しています。本機の騒音レベルは、主要諸元の章とステッカーに記載されています。

製品に付いている他のシンボル／銘板はそれぞれの市場地域に向けた特別な認定条件を示します。

警告レベルの説明

警告は 3 つのレベルで構成されます。

警告!

警告!避けることができない場合、死亡したり重傷を負う可能性のある危険な状況を表します。

注意!

注意!避けることができない場合、軽中度の負傷を負う可能性のある危険な状況を表します。

注記!

注記!は人身事故に関係がない取り扱いについて使用しています。

目次

シンボルマークの意味
取扱説明書のバージョンについて 2
本機に表記されるシンボルマーク 2
警告レベルの説明 2
目次
目次 3
概要
お客様へ 4
設計および機能 4
概要
パワーカッターの各部名称 - K970 II 5
概要
パワーカッターの各部名称 - K970 II Rescue 6
本機の安全装置
はじめに 7
カッティングブレード
はじめに 9
研磨ブレード 10
ダイアモンドブレード 10
歯付きブレード、カーバイドチップブレードおよび緊急事態 11
搬送と保管 11
組み立てと調整
はじめに 12
ドライブシャフトとフランジウォツシャーの点検 12
ブッシングの検査 12
ブレード回転方向の検査 12
カッティングブレードの取付 12
ブレードガード 13
リバーシブルカッティングヘッド 13
燃料の取り扱い
はじめに 14
燃料 14
給油 15
搬送と保管 15
操作
防護装備 16
安全に関する予備知識 16
搬送と保管 21
始動と停止
始動前に 22
始動 22
停止 24
メンテナンス
はじめに 25
メンテナンスのスケジュール 25
清掃 25
機能検査 26
主要諸元
主要諸元 30
カッティング装置 30
EC 適合性宣言 31

概要

お客様へ

ハスクバーナの製品をご購入いただき誠にありがとうございます。

本製品にご満足いただき、末永くご愛顧いただけることを願っております。弊社製品のご購入後は、弊社技術員による修理ならびに整備をご利用いただけます。お買い上げになった販売店が正規代理店でない場合は、その販売店に最寄りのサービスショップの所在地をお問い合わせください。

本取扱説明書は大切な書類です。作業場所に置いて、いつでも利用できるようにしてください。説明書の記載内容（使用方法、修理、メンテナンスなど）に従うことにより、本機の寿命を延ばし、転売時の価値を高く維持することができます。本機を転売する場合は、必ず取扱説明書を同梱してください。

300 年以上も続けられているイノベーション

ハスクバーナの歴史は、スウェーデン王であるカール 11 世がマスケット銃の製造を目的とした工場の建設を命じた 1689 年に遡ります。その時代、ハスクバーナは、猟銃、自転車、オートバイ、国産機械、ミシン、アウトドア製品などの分野で世界をリードするプロダクトを開発。それらの開発を支える技術的スキルを背景に、企業の礎がすでに築かれています。

ハスクバーナは、森林や公園のメンテナンス、芝生や庭の管理向けアウトドア用パワープロダクト、さらには、建設および石材産業向けカッティング装置やダイアモンド工具などのグローバルリーダーです。

オーナーの責任

本機を安全に使用するための十分な知識を使用者に持たせることは、オーナーあるいは雇用者の責任です。監督者や使用者は、あらかじめ取扱説明書を読み、内容を理解する必要があります。使用者は以下の点を確認する必要があります。

- 本機の安全に関する説明事項。
- 本機の用途の範囲や使用限度について。
- 本機の使用方法とメンテナンス方法について。

本機の使用においては、国内法による規制が課せられる場合があります。本機を使用して作業を開始する前に、作業区域に適用される法律についてご確認ください。

メーカーからお客様へ

この取扱説明書の発行後、ハスクバーナ社は製品の安全な操作のための追加情報を発表する場合があります。最も安全な操作方法の最新情報を確認するのは、オーナーの義務です。

ハスクバーナ社は継続的に製品の開発を行っています。そのため、設計や外見などが予告なく変更されることがあります。

ご質問やご要望がある場合は、弊社のウェブサイト（www.husqvarnacp.com）からお問い合わせください。

設計および機能

これは石やスチールなどの硬い物質を切断するために設計された高速のハンドヘルドパワーカッターです。この取扱説明書に記載されていない目的に使用しないでください。この製品を安全に操作するため、作業者はこの取扱説明書を注意深く読む必要があります。さらに情報が必要な場合は、販売店またはハスクバーナにご相談ください。

お使いの製品には、以下の特長があります。

Active Air Filtration™

遠心分離式空気浄化機能により、耐用年数とサービス間隔が伸びました。

SmartCarb™

内蔵自動フィルター補正機能により、ハイパワーを維持し、燃料消費を削減。

Dura Starter™

内部のリターンスプリングとプーリーベアリングが密閉された防塵スターターユニットは、実質的にメンテナンス不要で、高い信頼性があります。

X-Torq®

X-Torq®エンジンは、広範囲のスピードに対して最適なトルクを提供し、最大限の切断能力を実現します。X-Torq®は、燃料消費を最大 20 %、排出ガスを最大 60 %削減します。

EasyStart

エンジンとスターターは、迅速かつ簡単に製品を始動させられるように設計されています。スターターロープの引っ張り抵抗が 40%減少しています。（始動時の圧縮を減少）

エアパージ

エアパージダイアフラムを押すと、燃料はキャブレターへ送られます。エンジンは、スターターを数回引くことで簡単に始動できます。

DEX

弱流水湿式切断キットによる効果的な粉塵処理。

効率的な防振装置

効率的な防振装置により、腕や手に伝わる振動が軽減されます。

リバーシブルカッティングヘッド (K970 II 14”のみに適用)

本機には、リバーシブルカッティングヘッドが備えられており、壁や地面へ近接して切断できます。このときの距離はブレードガードの厚みによってのみ制限されます。

特殊開発のスターターハンドル (K970 II Rescue)

厚手の手袋をしても手が入るスペースを確保した 特殊開発のスターターハンドル。

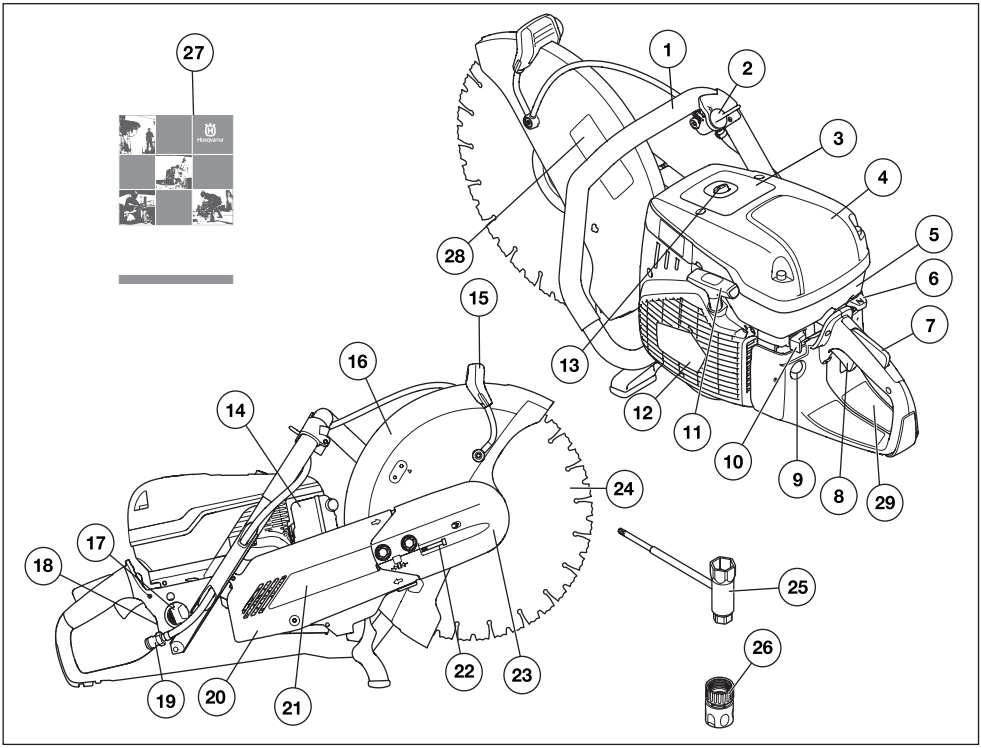
調整可能キャリーストラップ (K970 II Rescue)

調整可能キャリーストラップにより、作業者は自由な動きが可能です。

クロムメッキ付きブレードガード (K970 II Rescue)

クロムメッキ付きブレードガードは、煙や水しぶきの中でも見やすく、カッターの操作性を向上させます。

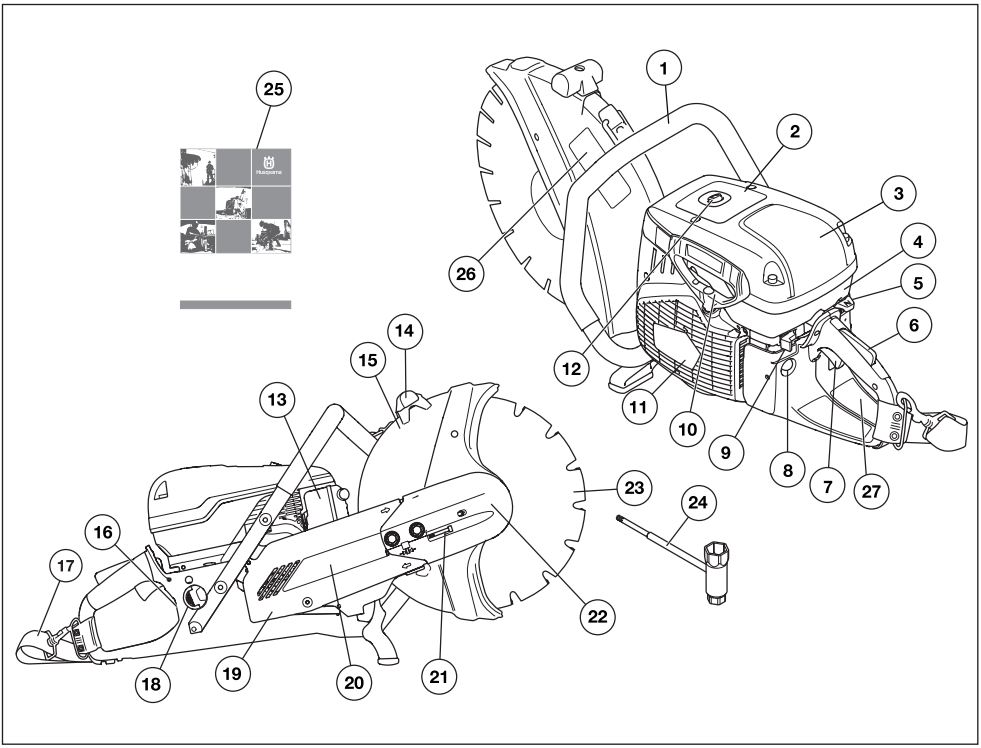
概要



パワーカッターの各部名称 - K970 II

1 フロントハンドル
2 水タップ
3 警告ラベル
4 エアフィルターカバー
5 シリンダーカバー
6 スタートスロットルロック付きチョークコントロール
7 スロットルトリガーロック
8 スロットルトリガー
9 エアパージ
10 ストップスイッチ
11 スターターハンドル
12 スターターハウジング
13 デコンプバルブ
14 マフラー
15 ガード用調整ハンドル
16 ブレードガード
17 燃料カップ
18 型式銘板
19 フィルター付き給水接続部
20 ベルト保護カバー
21 カッティングアーム
22 ベルトテンションねじ
23 カッティングヘッド
24 カッティングブレード（別売り）
25 コンビレンチ
26 水コネクター、GARDENA®
27 取扱説明書
28 カッティング装置ラベル
29 始動方法説明ラベル

概要



パワーカッターの各部名称 - K970 II Rescue

1 フロントハンドル
2 警告ラベル
3 エアフィルターカバー
4 シリンダーカバー
5 スタートスロットルロック付きチョークコントロール
6 スロットルトリガーロック
7 スロットルトリガー
8 エアパージ
9 ストップスイッチ
10 スターターハンドル
11 スターターハウジング
12 デコンプバルブ
13 マフラー
14 ガード用調整ハンドル
15 ブレードガード
16 型式銘板
17 ハーネス
18 燃料カップ
19 ベルト保護カバー
20 カッティングアーム
21 ベルトテンションねじ
22 カッティングヘッド
23 カッティングブレード（別売り）
24 コンビレンチ
25 取扱説明書
26 カッティング装置ラベル
27 始動方法説明ラベル

本機の安全装置

はじめに

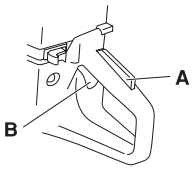
警告!安全装置に欠陥のある製品は決して使用しないでください。お持ちの機械が点検項目を一点でも満たさない場合は、お近くのサービスショップに修理を依頼してください。

停止スイッチを STOP 位置にして、エンジンを切ってください。

この項では、本機の安全装置とその目的、本機の正しい動作を確保するための検査とメンテナンスの方法について説明します。

スロットルトリガーロック

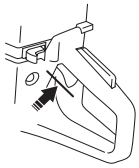
スロットルトリガーロックはスロットルの操作ミスを防ぐためのものです。ロック（A）を押すと、スロットル（B）が解除されます。



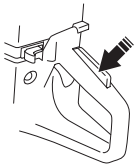
スロットルが押されている間は、トリガーロックは押されたままの状態を保ちます。ハンドルのグリップを放すと、スロットルトリガーとスロットルトリガーロックの両方が元の位置に戻ります。この動作は、2つの独立したリターンスプリングシステムが制御しています。この構造はつまり、スロットルトリガーが自動的にアイドリング状態でロックされることを意味します。

スロットルロックの検査

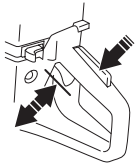
- スロットルロックを放したとき、スロットルトリガーがアイドリングの位置にロックされていることを確認します。



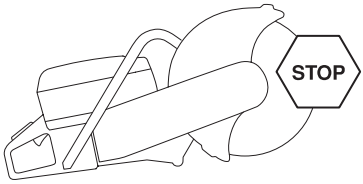
- スロットルロックを押し、指を放すと元の位置に戻ることを確認します。



- スロットルトリガーとスロットルロックがスムーズに動き、リターンスプリングが正しく機能していることを点検します。

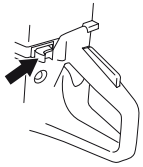


- パワーカッターを始動し、フルスロットルにします。スロットルコントロールを放せばカッティングブレードの走行が停止し、静止状態が保たれることを確認します。スロットルがアイドリングの位置にあるにもかかわらずカッティングブレードが走行する場合は、キャブレターのアイドリング調整をチェックしてください。詳細は、「メンテナンス」を参照してください。



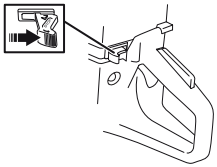
停止スイッチ

停止スイッチはエンジンを切るときに使用します。



停止スイッチの検査

- エンジンを始動し、停止スイッチを STOP 位置にしたときにエンジンが停止することを確認します。

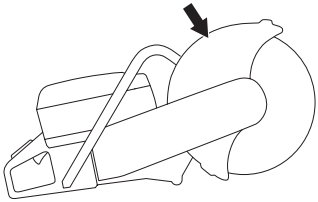


本機の安全装置

ブレードガード

警告!本機を始動する前に、ガードが正しく装着されていることを必ず確認してください。

カッティングブレードの上にガードが取り付けられています。ガードはブレードや切断小片が作業者に向って飛ぶのを防ぐためのものです。



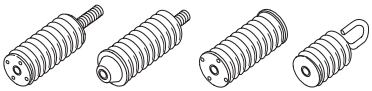
ブレードおよびブレードガードの状態を検査します。

- カッティングブレード上のガードを検査し、ひび割れや損傷がないかを確認します。損傷があるときは交換します。
- カッティングブレードが正しく取り付けられており、損傷がないことを確認します。損傷のあるブレードは、人的な傷害を招きます。

防振装置

警告!循環器系に障害のある人が長時間振動を受け続けると、循環器障害や神経障害を起こすことがあります。長時間振動を受け続けたために症状が現れた場合は、医師の診断を受けてください。症状にはしびれ、感覚麻痺、ピリピリ感、刺痛、痛み、脱力感、皮膚の色や状態の変化などがあります。これらの症状は通常、指や手の甲、手首に現れます。この症状は低温の環境下でよく起こります。

- 本機には防振装置がついており、振動を軽減し、操作しやすいようになっています。
- 本機の振動軽減システムは、エンジンユニットやカッティング装置からハンドルへの振動の伝達を軽減します。カッティング装置を含むエンジン本体は、防振装置によってハンドルに振動が伝わりにくくなっています。



防振装置の検査

警告!停止スイッチを STOP 位置にして、エンジンを切ってください。

- 防振装置にヒビや変形がないか、定期的に点検します。損傷がある場合、交換してください。
- 防振装置がエンジンユニットとハンドルユニットの間にしっかりと固定されていることを確認します。

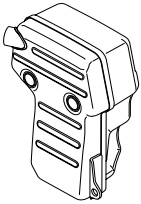
マフラー

警告!マフラー無しの製品や欠陥のあるマフラーを装着した製品は決して使用しないでください。マフラーに損傷があると騒音レベルや火災の危険性が高くなります。消火装置をすぐ使用できるように用意しておいてください。

マフラーは使用中や使用直後、アイドリング時に非常に熱くなります。特に可燃物や可燃性ガスの近くで作業をするときは、火災の危険性に注意してください。

消火装置をすぐ使用できるように用意しておいてください。

マフラーは騒音のレベルを最小限に抑え、排気ガスを使用者から遠ざける働きをします。



マフラーの点検

マフラーが完全に正常で、正しく固定されていることを定期的に確認します。

カッティングブレード

はじめに

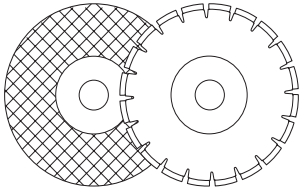
警告!カッティングブレードが壊れて、作業者がけがをすることがあります。

カッティングブレードのメーカーは、カッティングブレードの使用と正しい手入れに関する警告と推奨事項を公表しています。これらの警告はカッティングブレードに同梱されています。カッティングブレードメーカーからの指示を読み、従ってください。

カッティングブレードは、本体に取り付ける前に確認し、使用中にも頻繁に確認する必要があります。ヒビ、切片（ダイアモンドブレード）の欠損、または破損した部品がないか調べてください。損傷のあるカッティングブレードは使用しないでください。

カッティングブレードを新品と交換した場合は、約 1 分間フルスロットルで運転して、問題がないことをテストしてください。

- カッティングブレードは 2 種類の基本デザインがあります。研磨ブレードとダイアモンドブレードです。



- 高品質ブレードが、ほとんどの場合、最も経済的 です。低品質のブレードは、切断能力が低く、寿命が短いことが多く、切断できる材料の量を考慮するとコスト高になります。
- 本機に取り付けるカッティングブレードには、正しいブッシングを使用してください。「カッティングブレードの組み立て」の説明を参照してください。

適切なカッティングブレード

カッティングブレード	K970 II	K970 II、K970 II Rescue
研磨ブレード	使用可*	使用可*
ダイアモンドブレード	使用可	使用可
歯付きブレード	使用不可	使用可**

詳しくは、「主要諸元」を参照してください。

*水なし

**「歯付きブレード、カーバイドチップブレードおよび緊急事態」の説明をご覧ください。

様々な素材へ対応するカッティングブレード

警告!カッティングブレードを、用途対象材料以外には絶対に使用しないでください。

プラスチック材の切断にダイアモンドブレードは決して使用しないでください。切断中に熱が発生してプラスチックが溶け、カッティングブレードに付着し、キックバックを起こすことがあります。

金属の切断は、火災の原因となる火花を発生させます。引火しやすい物質やガスの近くで本機を使用しないでください。

様々な用途に対するブレードの適性に関しては、カッティングブレードの説明書に従うか、代理店にご相談ください。

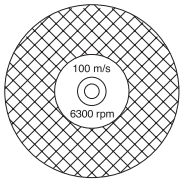
	コンクリート	金属	プラスチック	鋳鉄
研磨ブレード	○	○	○	○
ダイアモンドブレード	○	○*		○*

* 特殊ブレードのみ。

ハンドヘルド高速カッター

警告!パワーカッターよりも遅い定格速度のカッティングブレードを使用しないでください。ハンドヘルド高速パワーカッター用のカッティングブレードのみを使用してください。

- 固定式のカッター用のカッティングブレードには、本機に取付可能なものが多いですが、そのほとんどが ハンドヘルドタイプの本機に必要な定格速度よりも遅いものです。定格速度が遅いカッティングブレードを、本機に決して使用しないでください。
- ハスクバーナのカッティングブレードは携帯用高速パワーカッター用に製造されています。
- ブレードがエンジンの定格銘板に記載の速度あるいはそれ以上に準拠しているか確認してください。パワーカッターよりも遅い定格速度のカッティングブレードを使用しないでください。



ブレードの振動

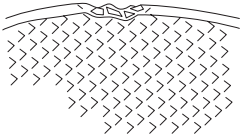
- フィード時にかかる圧力が高すぎると、ブレードには、ひずみが生じて、振動することがあります。
- フィード時の圧力を下げることにより、振動を停止させることができます。あるいは、ブレードを交換します。

カッティングブレード

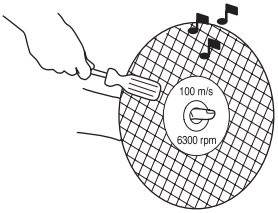
研磨ブレード

警告!水と共に研磨ブレードを使用しないでください。研磨ブレードは、水や湿気にさらされると強度が低下し、ブレード破壊の危険が増します。

- 研磨ブレード上の切断素材は有機結合材で接着した粒子から構成されています。「補強ブレード」は繊維または繊維ベースの材料を使用しており、最高作動速度の際にブレードがヒビや損傷を受けても、完全に破損することを防止します。
- カッティングブレードの性能は研磨粒子のタイプやサイズ、ならびに結合剤の種類および硬度により決まります。
- ひび割れや損傷のあるカッティングブレードは決して使用しないでください。



- 研磨ブレードを指で吊り下げ、ねじ回しのようなツールで軽く叩いてください。ブレードから共鳴音が聞こえないときは、破損しています。



様々な素材へ対応する研磨ブレード

ブレードの種類	材質
コンクリート用ブレード	コンクリート、アスファルト、石材、鋳鉄、アルミニウム、銅、真ちゅう、ケーブル、ゴム、プラスチックなど。
金属用ブレード	鉄、鉄合金、その他の硬質金属。

ダイアモンドブレード

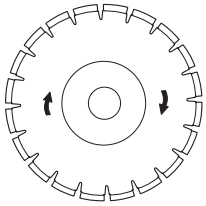
はじめに

警告!プラスチック材を切断する場合、ダイアモンドブレードは決して使用しないでください。切断中に熱が発生してプラスチックが溶け、カッティングブレードに付着し、キックバックを起こすことがあります。

ダイアモンドブレードは、使用中、非常に熱くなります。誤った使用はブレードの過熱を引き起こし、ブレードの変形によって、損傷や傷害を招くことがあります。

金属の切断は、火災の原因となる火花を発生させます。引火しやすい物質やガスの近くで本機を使用しないでください。

- ダイアモンドブレードは、工業用ダイアモンドを含む切片が鋼鉄製ブレード本体に付いた構成になっています。
- ダイアモンドブレードは交換頻度が低く、一定の切断深度を保つことができ、切断操作に係るコストを低減することができます。
- ダイアモンドブレードを使用するときは、ブレードに表記された矢印の方向に回転することを確認してください。



さまざまな素材に対応するダイアモンドブレード

- ダイアモンドブレードは石材、鉄筋コンクリート、その他の複合材料の切断に適しています。
- ダイアモンドブレードは、さまざまな硬さの種類が提供されています。
- 金属を切断する場合は、特殊ブレードを使用してください。製品の正しい選択については、販売店にご相談ください。

ダイアモンドブレードの研ぎ方

- 必ずよく切れる状態のダイアモンドブレードをお使いください。
- ダイアモンドブレードは、フィード時に間違った圧力をかけたり、強化鉄筋コンクリートなどの材料を切断すると、鋭さが失われます。切れなくなったダイアモンドブレードで作業をすると、ブレードの過熱を発生させ、ダイアモンド切片がもろくなることがあります。
- 砂岩やれんがのような柔らかい物質を切断してブレードの目立てを行ってください。

ダイアモンドブレードと冷却

- 切断中、切断部の摩擦によりダイアモンドブレードが高温になります。ブレードの温度が高くなり過ぎると、ブレードのテンションが失われたり、コアに亀裂が入ったりする原因になります。

乾式切断用のダイアモンドブレード

- 冷却に水は不要ですが、乾式カッティングブレードは、ブレードの周囲の空気の流れにより冷却する必要があります。このため、乾式カッティングブレードは断続的な切断にのみ使用することを推奨します。数秒間切断するたびに、負荷をかけずにブレードを運転して、ブレードの周囲の空気により熱を逃がす必要があります。

湿式切断用のダイアモンドブレード

- 湿式切断用のダイアモンドブレードは、必ず水とともに使用してください。切断中にブレードコアと切片の温度を低く保つ 必要があるからです。
- 湿式カッティングブレードを水なしで絶対使用しないでください。
- 水なしで湿式カッティングブレードを使用すると、過度の発熱が起こり、性能の低下やブレードの激しい損傷の原因となり、危険です。
- 水冷却はブレードの寿命を延ばし、同時にほこりの堆積を減少させます。

歯付きブレード、カーバイドチップブレードおよび緊急事態

カーバイドチップブレードは、訓練を受けたスタッフが救助活動でのみ使用するものです。

搬送と保管

- カッティングブレードを付けたままパワーカッターを保管したり、搬送しないでください。使用後はすべてのブレードを取り外し、慎重にブレードを保管してください。
- カッティングブレードは 霜の発生しない乾燥した場所に保管してください。研磨ブレードは慎重に取り扱ってください。研磨ブレードは必ず水平にして保管してください。研磨ブレードを湿気のある場所で保管すると、バランスが悪くなり、負傷の原因になります。
- 新品のブレードは、搬送や保管による損傷がないか点検してください。

組み立てと調整

はじめに

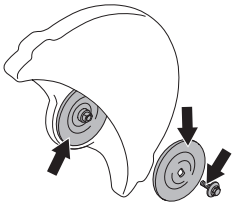
警告!停止スイッチを STOP 位置にして、エンジンを切ってください。

ハスクバーナのブレードはハンドヘルドパワーカッター用に認定された高速ブレードです。

ドライブシャフトとフランジワッシャーの点検

ブレードを新品に交換した場合、フランジワッシャーとドライブシャフトを点検します。

- ドライブシャフト上のねじ山に損傷がないか確認します。
- ブレードとフランジワッシャーの接触面に損傷がないこと、正しいサイズであること、汚れがなく、ドライブ車軸上で適切に動作することを確認します。



曲がっていたり、角がかけていたり、不均衡であったり、または汚れているフランジワッシャーは使用しないでください。違ったサイズのフランジワッシャーは使用しないでください。

ブッシングの検査

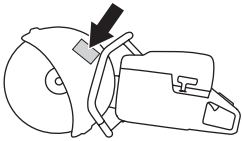
ブッシングは、カッティングブレードのセンター穴に入れて、本機に適切に取り付けられるようにするためのものです。

14 インチ

本機には、ひっくり返して使うことによって、20 mm と 1 インチ (25.4 mm) に対応するブッシングが同梱されています。ブレードガード上のシールに適切なブレード仕様が表示されています。

16 インチ

ブッシングは、マシンをカッティングブレードの中心ホー マシンには、20 mm(25/32″) および 25, 4 mm (1″) という二種類のサイズのブッシングが付属しています。ブレードガード上のプレートは、工場出荷時のブッシングの種類を示しています。

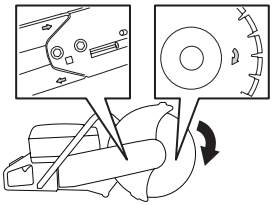


- 本機のスピンドルシャフト上のブッシングと、カッティングブレードのセンター穴 がぴったりと合っていることを確認してください。ブレードにはセンター穴の直径が記してあります。

必ずハスクバーナ製のブッシングを使用してください。ハスクバーナ製のブッシングは製品専用に設計されています。

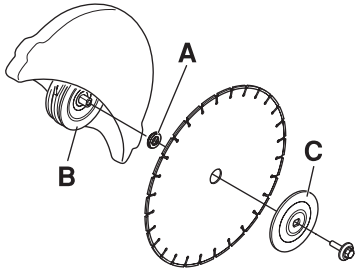
ブレード回転方向の検査

- ダイアモンドブレードを使用するときは、ブレードに表記された矢印の方向に回転することを確認してください。マシンの回転方向は、カッティングアーム上の矢印で示されています。

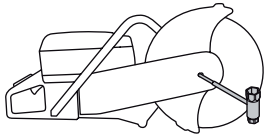


カッティングブレードの取付

- ブレードは、内部フランジワッシャー (B) とフランジワッシャー (C) の間のブッシング (A) 上に設置されます。フランジワッシャーを回し、軸へ取り付けます。



- シャフトをロックします。工具をカッティングヘッドの穴へ挿入して、ロックされるまでブレードを回転します。



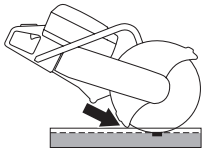
- ブレードを留めているボルトの締め付けトルクは 25 Nm (18.5 フィート - ポンド)。です

ブレードガード

カッティング装置用ガードを適切に調整して、後ろ側が切断対象物と同一平面上になるようにします。ガードは切断くずや火花が飛び散るのを防ぎ、使用者を保護します。

ブレードガードはフリクションロック方式になっています。

- ガードの終端を加工物へ押し付けるか、あるいは、調整ハンドルによってガードを調整してください。ブレードガードを、パワーカッターに必ず取り付けてください。



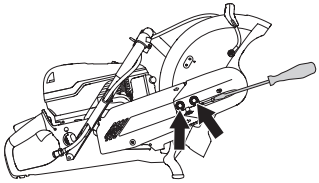
リバーシブルカッティングヘッド (K970 II 14”のみに適用)

本機は、リバーシブルカッティングヘッドが取り付けられており、壁や地面へ近接して切断できます。このときの距離はブレードガードの厚みによってのみ制限されます。

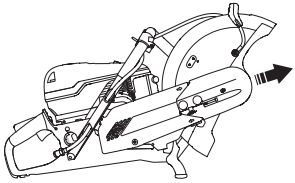
キックバックが起きたときは、カッティングヘッドを裏返して切断しているときのほうが、元の位置の時より本機のコントロールが難しくなります。カッティングブレードが製品の中心から大きく離れた場合、ハンドルとカッティングブレードが一直線上にないことを意味しています。このような状態で、ブレードがキックバック危険ゾーンで挟まったり、引っかかったりした場合、マシンを抑制するのは非常に難しくなります。キックバックに関する詳細内容については、「操作」内の「キックバック」を参照してください。

バランスなど、製品が備えている人間工学的に優れた特徴が一部役に立たなくなります。カッティングヘッドを裏返して行う切断は、一般的な方法による切断が困難な場合にのみ実施するようにしてください。

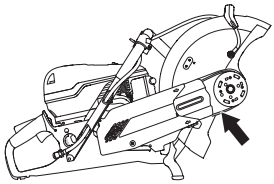
- 最初に二箇所のボルトを緩め、続いて調整ねじを緩めて、ベルトのテンションを無くします。



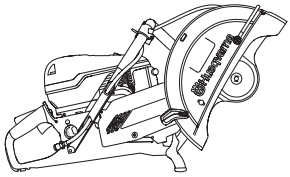
- 次に、ボルトを緩めて、ベルトガードを外します。



- ブレードガードから水ホースを外します。
- ベルトプーリーからベルトを外します。



- この時点で、カッティングヘッドは緩んでいて、製品から取り外すことができます。
- カッティングヘッドを取り外して、カッティングアームの反対側へ取り付けます。



- 裏返しにしたカッティングヘッドにベルトガードを取り付けます。
- 駆動ベルトを締めます。詳細は、「メンテナンス」を参照してください。
- 水ホースニップルとホースをブレードガードの反対の上部に取り付けてください。

燃料の取り扱い

はじめに

警告!狭い場所や換気の悪い場所でエンジンをかけると、窒息 や一酸化炭素中毒による死亡事故につながる おそれがあります。1メートル以上の深い溝や堀などで作業する場合、ファンを使用して適切な換気を確保してください。

燃料や燃料ガスは、非常に可燃性が高く、人間が吸いこんだり、皮膚に付けたりすると深刻な傷害を引き起こすおそれがあります。このため、燃料の取り扱いには細心の注意を払い、十分な換気を確保するようにしてください。

エンジンの排気ガスは高温で火花を含むこともあり、火災発生の原因となります。屋内や可燃物のそばでは、決して本機を始動しないでください!

燃料付近では、喫煙したり、熱い物体を置いたりしないでください。

燃料

注記!本機は 2 サイクルエンジンを搭載しているため、運転にはガソリンと 2 サイクルオイルとの混合燃料が必要です。正しい混合率を確保するためには、オイルの量を正確に計量することが重要です。少量の燃料を混合する場合は、わずかな誤差でも配合に多大な影響を及ぼすことがあります。

ガソリン

- 良質の無鉛または有鉛ガソリンを使用してください。
- 推奨する最低オクタン価は 90（RON）です。オクタン価が 90 未満のガソリンを使用すると、ノッキングの原因になります。ノッキングが起きるとエンジンの温度が上がって、エンジンの深刻な損傷につながることがあります。
- 高回転を継続させて作業する場合、オクタン価の高いガソリンを推奨します。

環境に優しい燃料

ハスクバーナは、Aspen（アスペン） 2 サイクル燃料、または 4 サイクルエンジン用のエコガソリンに 2 サイクルオイルを下表の通り混合したもの、いずれかの アルキレート燃料の使用を推奨します。燃料のタイプを変更した場合、キャブレターの調整が必要です。ご注意ください。（「キャブレター」参照。）

エタノールを混合した燃料、E10 が使用できます（エタノールの混合率最大10 %）。E10 を超えるエタノール混合燃料の使用は、動作条件を劣化させて エンジンの損傷を引き起こします。

2 サイクルエンジンオイル

- 最良の効果と性能を発揮するには、ハスクバーナ製 2 サイクルエンジンオイルをご使用ください。このオイルは、本機に使用される空冷式 2 サイクルエンジン用として特別に調合されています。
- アウトボードオイル（TCW）とも呼ばれる水冷エンジン用の 2 サイクルエンジンオイルは絶対に使用しないでください。
- 2 サイクルエンジンオイルも絶対に使用しないでください。

混合

- ガソリンとオイルを混合するときは、必ず汚れていない燃料用容器をご使用ください。
- 必ず使用予定の半量のガソリンを、最初に容器に入れます。次にオイルの全量を入れます。燃料の混合物を良く混ぜ（振り）ます。最後に残りのガソリンを加えます。
- 燃料タンクに給油する前に、混合燃料を良く混ぜ（振り）ます。
- 1 ヵ月分以上の混合燃料を一度に作らないでください。

混合比

- ハスクバーナ 2 サイクルオイルまたは同等のものを使用の場合、1:50（2 %） にしてください。

ガソリン、リットル	2 サイクルオイル、リットル
	2 %（1:50）
5	0.10
10	0.20
15	0.30
20	0.40

- 空冷 2 サイクルエンジン用に調合されたオイルクラス JASO FB または ISO EGB、またはオイル製造者の推奨に従って混合したものを使用する場合、1:33（3 %）にしてください。

燃料の取り扱い

給油

警告!給油をする前には、必ずエンジンを止めて数分間温度が下がるのを待ってください。停止スイッチを STOP 位置にして、エンジンを切ってください。

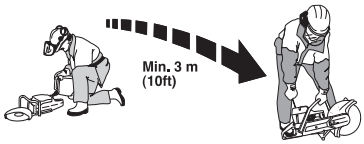
給油の際には、超過圧力が徐々に放出されるよう、燃料キャップをゆっくり開けてください。

燃料キャップの周囲をきれいにしてください。

給油後は燃料キャップをしっかり閉めてください。

キャップがしっかりしまっていない場合、キャップが振動で緩くなり、燃料が燃料タンクからもれて火災が発生するおそれがあります。

給油後は、給油した場所から少なくとも 3 m 離れたところで始動してください。



下記の条件では、決して本機を始動しないでください。

- 本機に燃料やエンジンオイルをこぼしたとき。きれいに拭き取り、表面に残った燃料が蒸発するのを待ちます。
- 皮膚や衣服に燃料をこぼしたときはまず着替えます。皮膚についた燃料を洗い流してください。石鹸と水を使用します。
- 燃料が漏れている場合。燃料キャップと燃料ホースから漏れていないか、定期的に点検してください。
- 燃料充填後に燃料キャップをしっかり締めていない場合。

搬送と保管

- 本機と燃料は、電気機器、電気モーター、リレー／スイッチ、ボイラーなど、火花や裸火を発するものから離して保管・運搬し、液体漏れやガスによる火災発生の危険性をなくしてください。
- 燃料の保管や搬送を行う場合は、必ず認可された専用容器を使用してください。

長期保管

- 本機を長期間保管するときは、必ず燃料タンクを空にしてください。余剰燃料の廃棄場所は最寄りのガソリンスタンドにご相談ください。

防護装備

はじめに

- 事故のときに、助けを求めることができない状況で、本機を使用しないでください。

使用者の身体保護具

本機を使用するときは、品質保証の身体保護具を必ず着用してください。身体保護具で負傷の危険性をなくすことができるわけではありませんが、万が一事故が起こった場合でも、負傷の程度を軽減できます。適切な身体保護具の選択については、販売店にご相談ください。

警告!材料の切断、粉砕、穴あけ、サンディング、形成を行う機械を使用すると、人体にとって危険な化学物質を含んだ粉塵や蒸気が生成されることがあります。加工する材料の性質を確認して、適切な呼吸マスクを使用してください。

長時間騒音にさらされることは、恒久的な聴覚障害の原因になることがあります。本機を使用する際は、品質保証のイヤマフを必ず着用してください。 イヤマフを着用している間、警告信号や警告のために誰かが叫ぶ声を聞き逃さないように、気を付けてください。エンジンが停止したら、速やかにイヤマフを外してください。

必ず以下のものを着用してください。

- 品質保証の保護ヘルメット
- イヤマフ
- 品質保証の保護メガネ。防護マスクを使用する場合、認可された防護ゴーグルも着用する必要があります。品質保証の防護ゴーグルは、米国の ANSI Z87.1 または EU 諸国の EN 166 規格 に適 合している必要があります。バイザーは、EN 1731 規格に適合していなければなりません。
- 呼吸マスク
- 高耐久性で、物をしっかりつかむことができる保護手袋
- 体の動きを制限することのない、体にフィットした、丈夫で快適な服装で作業してください。切断の際には火花が発生し、衣服に着火することがあります。防火綿または厚地のデニムを着ることを推奨します。ナイロン、ポリエステル、レーヨンなどの材質の衣服は着用しないでください。このような材質が発火した場合、溶けて肌にはりつく場合があります。短パンは着用しないでください。
- つま先部がスチール製で、滑りにくい靴底の防護靴

その他の保護装置

注意!本機での作業中、火花が飛び、火災が発生することがあります。必ず消火装置をお手元に装備してください。

- 消火器
- 常に救急箱を手元に準備しておいてください。

安全に関する予備知識

この項では、本機の使用に際しての基本的な安全注意事項について説明します。記載された情報は、専門家の技術や経験に代わるものではありません。

- 本機をご使用になる前に、この取扱説明書を注意深くお読みいただき、内容を必ずご確認ください。作業者が初めて使用する場合、使用前に実践的な指示も受けることを推奨します。
- 周囲の人やその所有物をさまざまな事故や危険にさらさないようにする責任は、使用者自身にあることを忘れないでください。
- 本機は常にきれいにしておいてください。注意を呼びかける記号やステッカーは、完全に判読できなければなりません。

いつも常識のある取り扱いを

起こり得る状況をすべて予測し、対応することは不可能です。常に注意を払い、常識に適った使用方法で操作してください。安全でないと感じる事態になったら、作業を停止し、熟知した人のアドバイスを受けてください。本機をお買い上げになった販売店、サービスショップや熟練ユーザーなどに相談してください。確信がもてない作業は行わないでください。

警告!本機の使用には危険が伴います。不注意または不適切な使用をすると、使用者や周りの人が重傷や致命傷を負う危険性があります。

本機の取り扱いの訓練を受けていない人や子供に、本機の使用や修理をさせないようにしてください。

必ず本取扱説明書の内容を読んで、理解した人にだけ、本機の使用を許可してください。

疲労時や飲酒後、医薬品を服用したときなど、視野・判断力・動作に影響を及ぼすおそれがあるときは、絶対に本機を使用しないでください。

警告!許可のない改造や付属品の使用は、使用者や周囲の人が重傷を負う、または死亡するおそれがあります。いかなる理由であれ、製造者の承認を得ることなく本機を改造しないでください。

本製品を改造したり、改造の疑いがある製品を使用しないでください。

欠陥のある製品は絶対に使用しないでください。この取扱説明書の内容に従って、安全点検、メンテナンス、修理を行ってください。メンテナンスや修理の内容によっては、専門家でなければできないものもあります。詳細は、「メンテナンス」を参照してください。

必ず純正部品をお使いください。

警告!本機では、運転中に電磁場が発生します。この電磁場は、場合によって能動的あるいは受動的な医療用インプラントに影響を及ぼすことがあります。重傷または致命傷の危険を避けるため、医療用インプラントの利用者は、本機を操作する前に、主治医およびペースメーカーの製造元に相談することを推奨します。

作業エリアの安全

警告!パワーカッターの安全距離は 15 メートルです。使用者は、動物や傍観者が、作業エリアにいないことを確認する責任を負っています。切断は、作業エリアに問題がなく、足場がしっかりしている場合にのみ、開始してください。

- 周囲の状況をチェックして、本機の使用に影響があるものを除去してください。
- 人間や物体がカッティング装置に接触しないこと、さらに、切断中に飛び散る物がぶつからないことを確認してください。
- 濃霧、豪雨、強風、厳寒など、気象条件の悪いときは、本機を使用しないでください。悪天候下での作業は、疲れやすく、また、地面が滑りやすくなるなど危険です。
- 作業エリアに余分なものがないことや、足場が安定していることを確認してから、本機の使用を開始してください。物が予期せずに移動してぶつかることがないように、注意を払ってください。切断時は、材料が崩れたり落下したりしないかを確認して、作業者がけがをしないように気をつけます。特に傾斜した場所で作業を行うときは 十分注意してください。
- 作業エリアには十分な照明が当てられており、安全な作業環境であることを確認してください。
- 配管や電気ケーブルが、作業エリアや切断する材料を通っていないことを確認してください。
- 容器（ドラム、パイプなど）を切断するときは、最初に、可燃性の物質や揮発性の物質が入っていないことを必ず確認してください。

基本的な作業方法

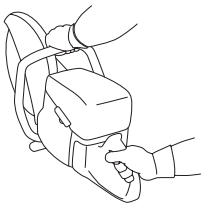
警告!パワーカッターを片側に引っ張らないでください。ブレードがロックしたり破損してけがをするおそれがあります。

いかなる場合でもブレードの側面で研磨はしないでください。損傷や破損を起こし、重大な損害の原因になります。刃先の部分のみを使用してください。

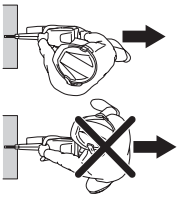
プラスチック材の切断にダイアモンドブレードは決して使用しないでください。切断中に熱が発生してプラスチックが溶け、カッティングブレードに付着し、キックバックを起こすことがあります。

金属の切断は、火災の原因となる火花を発生させます。引火しやすい物質やガスの近くで本機を使用しないでください。

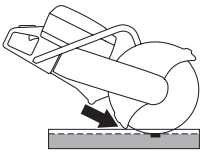
- 製品は、ハンドヘルド高速パワーカッターとして、研磨ブレードあるいはダイアモンドブレードによる切断が実施できるように開発されています。本機に他の種類のブレードを装着しないでください。また、用途外の切断には使用しないでください。
- カッティングブレードが正しく取り付けられており、損傷がないことを確認します。「カッティングブレード」および「組み立てと設定」の説明を参照してください。
- 対象となる用途に対して、適切なカッティングブレードが使用されていることを確認します。詳細は、「カッティングブレード」を参照してください。
- アスベスト材は切断しないでください!
- 本機を両手で持ち、親指と他の指で取り囲むようにしっかりハンドルを握ります。右手でリヤハンドル、左手でフロントハンドルを握ってください。右利き、左利きにかかわらず、必ずこの握り方をしてください。本機を片手だけで操作することは厳禁です。



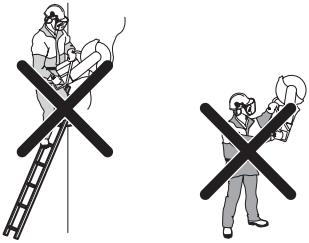
- カッティングブレードに対して並行に立ちます。本機の真後ろに立たないようにしてください。キックバックが発生した場合、パワーカッターはカッティングブレードの水平面方向に動きます。



- エンジンの動作中は、ブレードから安全な距離を保ちます。
- モーターが作動している状態で、本機から離れないでください。
- カッティング装置を回転させたまま、本機を移動しないでください。製品には、停止時間を短縮するための摩擦抑制装置が備わっています。
- カッティング装置用ガードを適切に調整して、後ろ側が切断対象物と同一平面上になるようにします。ガードは切断くずや火花が飛び散るのを防ぎ、使用者を保護します。必ずカッティング装置のガードを取り付けた状態で、本機を運転してください。

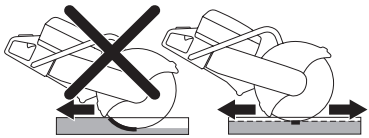


- ブレードのキックバックゾーンを**切断に**使用しないでください。詳細は、「キックバック」を参照してください。
- バランスを保ち、しっかりした足場を確保してください。
- 肩より高い位置で切断を行わないでください。
- ハシゴに乗って切断しないでください。肩より高い位置を切断する場合は、台や足場を利用してください。無理な体勢で作業しないでください。



- 切断対象物からほどよい距離に立ちます。
- パワーカッターを始動するとき、ブレードに何も触れていないことを確認します。
- カッティングブレードの回転を徐々に上げていき、高速回転（フルスロットル）にします。切断が終了するまでフル回転を維持します。
- 本機を動作させるときは、ブレードに力を掛けたり、押しつけたりしないでください。
- ブレードが対象物に垂直に当たるように真っ直ぐに下ろします。横からの圧力が加わると、ブレードが損傷し、非常に危険です。

- ブレードをゆっくり前方、後方へ交互に移動しブレードと切断対象材料との接触部分を小さくできます。こうすることによって、ブレードの温度を下げ、切断効果が高まります。



粉塵の管理

製品には、DEX（粉塵除去器）という、粉塵の発生を最小限に抑制する低圧流水キット が備わっています。

使うことで最適な粉塵の管理ができる場合は、DEX を装備した湿式カッティングブレードを使用してください。詳細は、「カッティングブレード」を参照してください。

コックを使用して水流を調整し、切断中に生じる粉塵が舞い上がらないようにしてください。必要な水量は、実施する作業の種類に応じて変わります。

製品を水の供給源に水ホースでつないでも、供給源から外れてしまうようなときは、水圧が高過ぎることを示しています。推奨水圧については、「主要諸元」の説明を参照してください。

救助活動における歯付きブレードあるいはカーバイドチップブレードを使用した切断作業

警告!カーバイドチップブレードを装着したパワーカッターは、建設作業などの非緊急業務では使用しないでください。

カーバイドチップブレードは、正しく使用しない場合、研磨ブレードやダイアモンドブレードよりもキックバックを起こしやすいことを、常に心に留めてください。

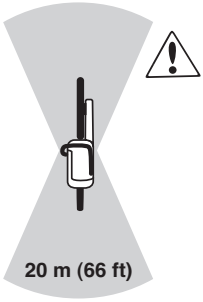
本機を購入した公的救助隊（消防隊）が、カーバイドチップブレードをマシンに装着して使用する場合、以下の安全事項を遵守する必要があります。

訓練と防護具

- カーバイドチップブレードが装着されたパワーカッターを使って、切断作業 訓練を受けた作業者だけに、パワーカッターの使用を認めるようにしてください。
- 作業者は、常に完全耐火服を着用してください。
- 作業者は、フルフェースの防護マスク（防護メガネのみは不可）を着用して、飛び散ってくる破片やパワーカッターの突然起きるキックバック から顔を保護してください。

危険エリア

上記の防護具を身に着けていない人間は、破片などが飛び散ってくる可能性のある危険エリア内に入れないようにしてください。

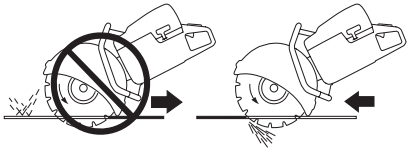


ブレード速度

カッティングブレードの回転を徐々に上げていき、高速回転（フルスロットル）にします。切断が終了するまでフル回転を維持します。特に硬くて薄い物質の場合、ブレードを低速にするとカーバイドチップが詰まったり砕け散る可能性があります。

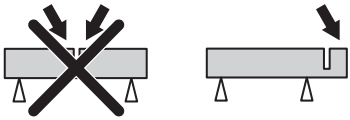
薄い材料

薄くて硬い材料（板金で覆われた屋根など）を切断する場合、コントロールしやすいように、前方向へ切断するようにしてください。



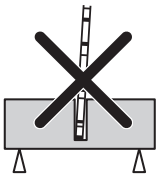
挟まりや引っ掛かり

切断の最終段階で加工物がどのように動くかを注意深く計算して、挟まりや引っ掛かりなどの障害を回避してください。切断中、切断部分が閉じないようにする必要があります。加工物に歪みが発生すると、切断部の空きスペースが無くなってブレードが挟まり、キックバックを起こしたり、ブレードを破損したりする可能性があります。



まっすぐに切断すること

切断ラインに対して斜めになったり、捻じれたりすると、切断効率の低下やブレードの損傷を招きます。



救助活動の前に

ブレードとブレードガードに損傷やひびのないことを確認します。強い力が加わったり、ひびが入ったときは、ブレードまたはブレードガードを交換します。

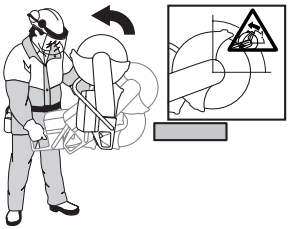
- カーバイドチップがカッティングブレードから緩んでいないかどうか検査します。
- ブレードに歪みがなく、ひびや他の損傷がないかどうか検査します。

硬い素材を切断すると、カーバイドチップブレードの切れ味は急激に悪くなります。救助活動のパフォーマンスを最大限に発揮できるよう、新しいブレードを装着しておくことを推奨します。

キックバック

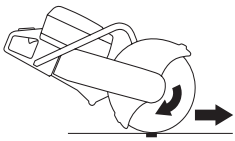
警告!キックバックは突然発生し、非常に危険な場合があります。パワーカッターが作業者に向かって回転しながら飛ばされて、人命にかかわる傷害を招くことさえあります。本機の使用前に、キックバックの原因と、その防ぎ方を理解することが非常に大切です。

キックバックとは、ブレードがキックバックゾーンで挟まったり、引っかかったりしたときに、パワーカッターが突然、上へ持ち上げられるような現象です。ほとんどのキックバックは小規模で、それほど危険を伴わないものです。しかしながら、キックバックは非常に危険な挙動を発生させることがあり、作業者に向かってパワーカッターが回転しながら飛ばされて、人命にかかわるような事故が発生することもあります。



反作用力

切断時、反作用力は常に存在します。この力は、ブレード回転に対して逆の方向へ製品を引っ張るように働きます。通常、この力は問題にはなりません。ブレードが挟まったり、引っかかったりすると、反作用力は強力になり、パワーカッターをコントロールできなくなることがあります。



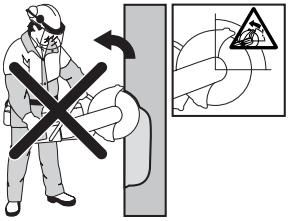
カッティング装置を回転させたまま、製品を移動しないでください。ジャイロ力により、意図した動きが阻害される場合があります。

キックバックゾーン

ブレードのキックバックゾーンを**切断に**使用しないでください。ブレードがキックバックゾーンで挟まったり、引っかかったりすると、反作用力により、作業者に向かってパワーカッターが回転しながら飛ばされて、人命にかかわるような事故が発生することもあります。

クライミングキックバック

キックバックゾーンで切断を行うと、反作用力によりブレードが切断箇所から持ち上がります。キックバックゾーンを使用しないでください。クライミングキックバックを回避するために、ブレードの下部、四分の一を使用してください。



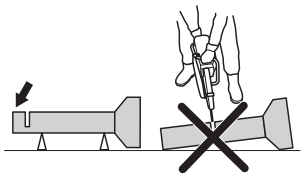
ピンチングキックバック

ピンチングとは、切断部が閉じて、ブレードを挟んでしまうことです。ブレードが挟まったり、引っかかったりすると、反作用力は強力になり、パワーカッターをコントロールできなくなることがあります。

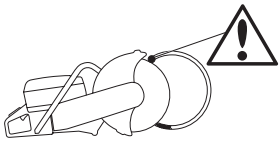
ブレードがキックバックゾーンで挟まったり、引っかかったりすると、反作用力により、作業者に向かってパワーカッターが回転しながら飛ばされて、人命にかかわるような事故が発生することもあります。作業対象物が動く可能性があるので、注意してください。作業対象物がしっかりと保持されておらず、切断時に動くと、ブレードが挟まり、キックバックの原因になる可能性があります。

パイプ切断

パイプを切断する場合、特に注意すべきことがあります。パイプがしっかりと保持されておらず、切断時、切断部がオープン状態を維持している場合、ブレードがキックバックゾーンで挟まり、危険なキックバックが発生することがあります。先端が鐘型に広がったパイプや、トレンチに入っていてしっかりと保持されていないために、たわんでブレードが挟まる可能性のあるパイプを切断するときは、特に注意してください。
切断を開始する前に、切断中動いたり回ったりしないように、パイプをしっかり固定する必要があります。

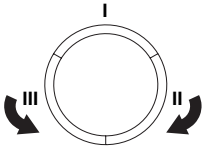


パイプがたわんで切削部が閉じると、キックバックゾーンでブレードが挟まれ、激しいキックバックが起きる可能性があります。パイプがしっかりと保持されていれば、パイプの端が下に動くことで切断部が開き、挟まれることはありません。



パイプを切断する正しい順序

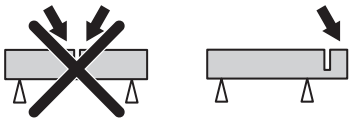
1 最初に、セクション I を切断します。
2 サイド II に移動して、セクション I からパイプの底部まで切断します。
3 サイド III に移動して、底部のパイプの端部の残りの部分を切断します。



キックバックの避け方

キックバックの回避は簡単です。

- 加工物は常に保持して、切断の最後まで切断部が閉じないようにしてください。切断部が開いていれば、キックバックは発生しません。切断部が閉じて、ブレードが挟まると、常にキックバックの危険があります。



- 既存の切れ目にブレードを挿入するときは注意してください。
- 切断対象物の動きや、その他起こり得るどんなことに対しても油断をしないでください。切断面が閉じたりブレードが挟まれたりすることがあります。

搬送と保管

- 搬送の間、損傷や事故が起こらないように、機器をしっかりと固定してください。
- カッティングブレードを付けたままパワーカッターを保管したり、搬送しないでください。
- カッティングブレードの搬送と保管については、「カッティングブレード」をご参照ください。
- 燃料の輸送と保管については、「燃料の取扱」をご参照ください。
- 本機は子供や許可されていない人の手の届かない鍵のかかる場所に保管してください。

始動と停止

始動前に

警告!始動時には以下の注意点を守ってください。本機をご使用になる前に、この取扱説明書を注意深くお読みいただき、内容を必ずご確認ください。

身体保護具を着用してください。「使用者の防護装備」の項の説明を参照してください。

ベルトまたはベルトガードが取り付けられていない状態で、本機を始動させないでください。クラッチが外れてけがをすることがあります。

燃料キャップが正しく固定されており、燃料漏れがないことを確認してください。

深刻な傷害を引き起こす危険があるので、関係者以外、作業エリアに入れないようにしてください。

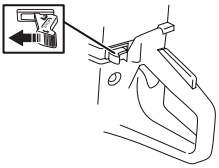
- 毎日のメンテナンスを実施してください。詳細は、「メンテナンス」を参照してください。

始動

警告!カッティングブレードは、エンジンが始動すると回転します。正常に回転していることを確認してください。

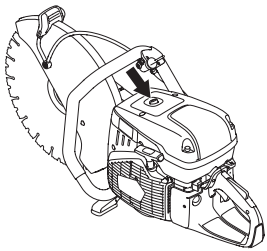
エンジンが冷えている場合:

- 停止スイッチ(STOP)が、左の位置にあることを確認してください。

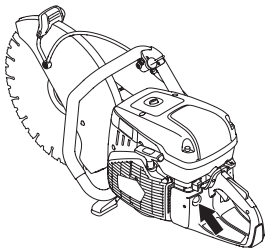


- チョークコントロールを完全に引き出すことにより、スタートスロットル位置とチョークの状態にすることができます。

- **デコンプバルブ:**シリンダー内の圧力を下げるため、バルブを押してください。これは、パワーカッターの始動を助けるためのものです。デコンプバルブは、始動時には必ず使用してください。本機が始動すると、バルブは自動的に初期位置に戻ります。



- 燃料がダイアフラムを満たし始めるまでエアパージダイアフラムを繰り返し押します(約6回)。ダイアフラムが満杯になるまで充填する必要はありません。



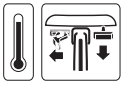
- 左手でフロントハンドルを握ります。後ろハンドルの下側に右足を乗せ、本機を地面に押し付けます。エンジンが始動するまで、右手でスターターハンドルを押します。**スターターロープは絶対に手に巻き付けないでください**。

- エンジンが始動したら素早くチョークコントロールを押します。チョークが引き出された状態のままだと、エンジンは数秒後に停止します。（エンジンが停止した場合、スターターハンドルを再び引きます。）
- スロットルトリガーを押してスタートスロットルを解除すると、本機は アイドリング状態になります。

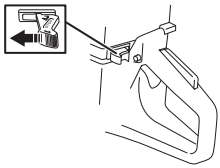
注記！抵抗を感じるまで（スターター爪が噛み合うまで）右手でスターターロープをゆっくり引いて、抵抗を感じたら一気に強く引きます。

スターターロープをいっぱいに引き出したところから、スターターハンドルを急に放さないでください。製品が損傷する恐れがあります。

エンジンが温かい場合：



- 停止スイッチ（STOP）が、左の位置にあることを確認してください。



- チョークコントロールをチョーク位置に引きます。チョーク位置にすると、自動スタートスロットル位置にもなります。

- **デコンプバルブ：**シリンダー内の圧力を下げるため、バルブを押してください。これは、パワーカッターの始動を助けるためのものです。デコンプバルブは、始動時には必ず使用してください。本機が始動すると、バルブは自動的に初期位置に戻ります。

- チョークコントロールを押してチョークを無効にします。（スタートスロットル位置はそのままです。）

- 左手でフロントハンドルを握ります。後ろハンドルの下側に右足を乗せ、本機を地面に押し付けます。エンジンが始動するまで、右手でスターターハンドルを押します。**スターターロープは絶対に手に巻き付けないでください**。

- スロットルトリガーを押してスタートスロットルを解除すると、本機はアイドリング状態になります。

注記！抵抗を感じるまで（スターター爪が噛み合うまで）右手でスターターロープをゆっくり引いて、抵抗を感じたら一気に強く引きます。

スターターロープをいっぱいに引き出したところから、スターターハンドルを急に放さないでください。製品が損傷する恐れがあります。

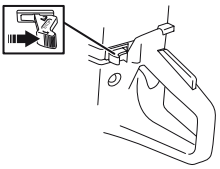
警告!エンジンの動作中、排気ガスには不燃焼の炭化水素や一酸化炭素などの化学物質が含まれています。このような排気ガスの含有物は、呼吸器障害、ガン、先天異常その他生殖障害の原因となることが知られています。

一酸化炭素は無色、無味で、排気ガスには必ず含まれています。一酸化炭素中毒の徴候は、軽度のめまいで、本人が認識できる場合も、できない場合もあります。一酸化炭素の濃度が高い場合、突然倒れ、意識を失う場合があります。一酸化炭素は無色無臭であるため、存在するかどうかを把握できません。排気臭がする場合は必ず、一酸化炭素が存在します。ガソリン駆動のパワーカッターは、屋内や3フィート(1 m)以上の深さの溝など、換気の悪い場所では絶対に使用しないでください。溝やその他密閉された場所で作業をする場合は、必ず換気を適切に行ってください。

停止

注意!カッティングブレードは、モーターが停止した後も1分間程度回転を続けます。(ブレードコースティング)カッティングブレードは完全に停止するまで、そのまま回転させてください。不注意により、大けがをすることがあります。

- 停止スイッチ(STOP)を右に移動させることで、エンジンが停止します。



メンテナンス

はじめに

警告!使用者は本取扱説明書に記載されているメンテナンスと点検だけを実施してください。本書に記載されている内容以外のメンテナンスは、必ずお近くの認定サービスショップ（販売店）に依頼してください。

停止スイッチを STOP 位置にして、エンジンを切ってください。

身体保護具を着用してください。「使用者の防護装備」の項の説明を参照してください。

本機のメンテナンスや点検を適切に行わなかったり、整備・修理を専門技術者に依頼せずに行うと、機械の寿命を縮め、事故発生の危険性が増します。詳しくは、お近くのサービスショップにお問い合わせください。

- ハスクバーナの販売店で定期的に本機を点検し、重要な調整や修理を行ってください。

メンテナンスのスケジュール

メンテナンススケジュールを見ると、メンテナンスが必要な 箇所と、実施すべき頻度が分かります。実施間隔は、本機を毎日使用することを前提としています。実際の間隔は、使用頻度によって異なってきます。

毎日のメンテナンス	**毎週のメンテナンス**	**毎月のメンテナンス**
清掃	**清掃**	**清掃**
外部の清掃		スパークプラグ
冷却用吸気口		燃料タンク
機能検査	**機能検査**	**機能検査**
一般点検	防振装置*	燃料システム
スロットルロック*	マフラー*	エアフィルター
停止スイッチ*	駆動ベルト	ドライブギア、クラッチ
ブレードガード*	キャブレター	
カッティングブレード**	スターターハウジング	

*詳細は、「製品の安全装置」を参照してください。

**「カッティングブレード」および「組み立てと設定」の説明を参照してください。

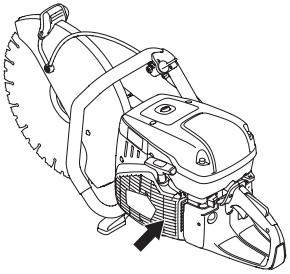
清掃

外部の清掃

- 作業の終了時にはいつも、本機をきれいな水で洗浄してください。

冷却用吸気口

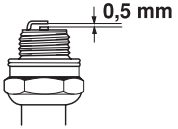
- 必要に応じて冷却用吸気口を清掃してください。



注記!吸気口が汚れたり詰まっていると、本機が過熱状態になり、ピストンやシリンダーに損傷を与えることになります。

スパークプラグ

- エンジンのパワーが出ない、なかなか始動しない、アイドリングが安定しないなどの場合は、まず最初に、スパークプラグを点検してください。
- 感電の危険を回避するために、スパークプラグキャップやイグニションリードが損傷していないことを確認してください。
- スパークプラグが汚れていたら、きれいにしてから電極ギャップが 0.5 mm あるかどうか確認します。必要なら交換します。



注記!必ず指定のタイプのスパークプラグを使用してください!間違ったスパークプラグを使用すると、ピストンやシリンダーを損傷する原因となります。

上記の要因によりスパークプラグ電極にカーボンが付着し、運転中の不具合や始動困難などの原因となります。

- 誤った混合燃料（オイル過多、間違った種類のオイルの使用）
- エアフィルターの汚れ

機能検査

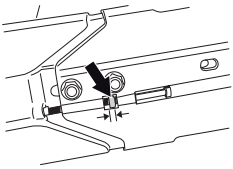
一般点検

- ナットおよびねじが確実に締められているかどうかを確認します。

駆動ベルト

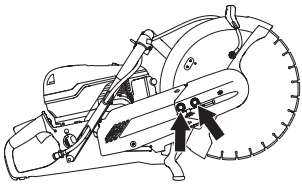
駆動ベルトのテンションを検査します。

- 駆動ベルトに適切なテンションをかけるには、四角ナットが、ベルトカバーのマーキングの反対側に位置するようにしてください。

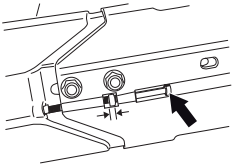


駆動ベルトのテンション調整

- 新しい駆動ベルドは、1～2 タンク分の燃料を使用した後で、張りの調整をしてください。
- 摩擦抑制装置が備わっている製品の場合、手でブレードの向きを変えると、引っかくような音が聞こえることがあります。これは全く正常です。ご質問があれば、ハスクバーナの正規取扱店にお問い合わせください。
- 駆動ベルトは密封され、ほこりや汚れから効果的に保護されています。
- 駆動ベルトにテンションをかける場合は、カッティングアームを固定しているボルトを緩めます。



- 四角ナットがカバー上のマーキングの反対側に来るように、調整ネジを回します。これによって、自動的にベルトを正しい張り具合に調整することができます。



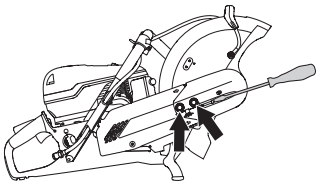
- コンビレンチを使用して、カッティングヘッドを固定しているねじの両方を締めます。

メンテナンス

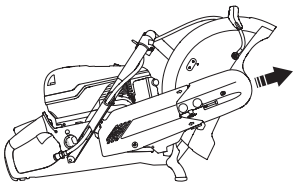
駆動ベルトの交換

警告!ベルトプーリーとクラッチがメンテナンスのために外されているときは、決してエンジンを始動させないでください。カッティングアームまたはカッティングヘッドが取り付けられていない状態で、本機を始動させないでください。クラッチが外れてけがをすることがあります。

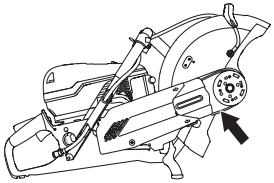
- 最初に二箇所のボルトを緩め、続いて調整ねじを緩めて、ベルトのテンションを緩めます。



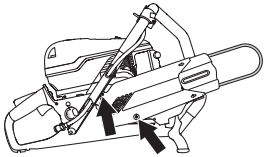
- 次に、ボルトを緩めて、ベルトガードを外します。



- ベルトプーリーからベルトを外します。



- この時点で、カッティングヘッドは緩んでいるので、製品から取り外すことができます。ガードを固定している2つのねじを緩めることで、リヤベルトガードを外します。



- 駆動ベルトを交換します。
- 解体をした順番と逆の順番で、組立を行います。

キャブレター

キャブレターには、固定ニードルが取り付けられており、燃料と空気の適切な混合気が、常に本機に供給されるようになっています。エンジンのパワーが足りないとき、加速が悪いときは、以下のことを行います。

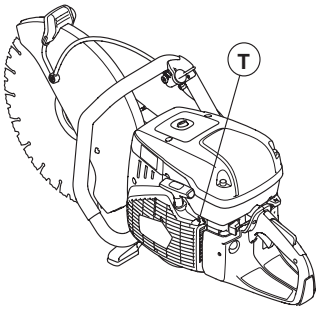
- エアフィルターを点検し、必要に応じて交換します。効果がないときは、弊社指定のサービスショップに問い合わせてください。

アイドリング速度の調整

注意!アイドリング設定が調節できず、ブレードが動かない場合は、販売店またはサービスショップにご連絡ください。本機のご使用は、調整または修理が完了するまでお控えください。

エンジンを始動し、アイドリング設定をチェックします。キャブレターが正しく設定されていると、カッティングブレードはアイドリング時に静止状態になるはずです。

- アイドリング速度の調整はTネジで行います。調整が必要なときは、ブレードが回転を開始するまで、ネジを時計回りに回します。次に、ブレードが回転を停止するまで、ネジを反時計回りに回します。



推奨アイドリング速度：2700 r/min

メンテナンス

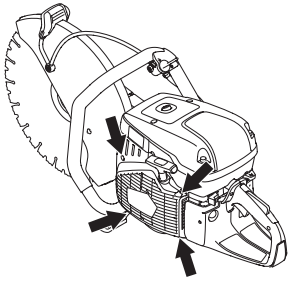
スターターハウジング

警告!リコイルスプリングは、テンションが掛けられた状態でスターターハウジングに組み込まれているため、不注意に取り扱うとスプリングが飛び出してけがをすることがあります。

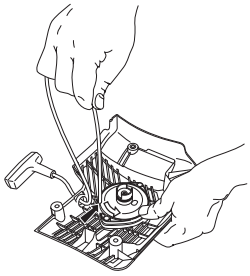
リコイルスプリングやスターターロープを交換するときは、常に注意を払って行ってください。必ず防護ゴーグルを着用してください。

破損したり消耗したスターターロープの交換

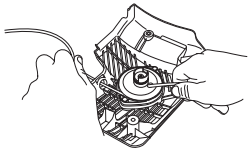
- スターターをクランクケースに固定しているネジを緩め、スターターを外します。



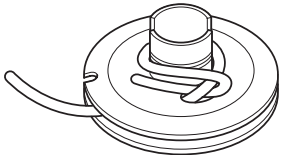
- コードを約 30 cm 引き、スタータープーリーの表面のカットアウトまで持ち上げます。コードに損傷がない場合：プーリーをゆっくりと逆に回転させ、スプリングのテンションを緩めます。



- 古いスターターロープの残りの部分を取り除き、リターンスプリングが動作することを確認します。新しいスターターロープをスターターハウジングとローププーリーの穴を通して挿入します。

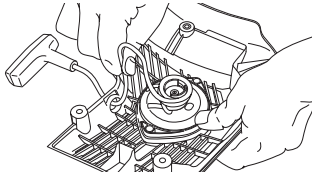


- スターターロープを、図のとおりに、ローププーリーの周りに固定します。締め具をよく締めて、自由端が可能な限り短くなるようにします。スターターロープの終わり部分をスターターハンドルに固定します。



リコイルスプリングのテンション調整

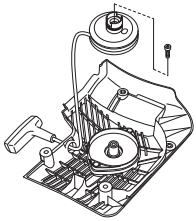
- コードを、プーリーの表面のカットアウトを通して導き、スタータープーリーの中心の周りに、コードを 3 回時計回りに巻きつけます。



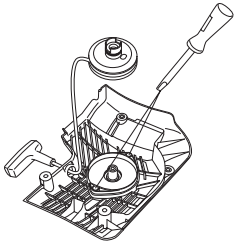
- 次にスターターハンドルを引き、それによってスプリングにテンションを与えます。もう一度、同じ手順を繰り返しますが、今度は 4 回巻きます。
- スプリングにテンションを掛けた後、スターターハンドルが正しくホームポジションにあることを確認します。
- スターターラインを完全に引き、スプリングが最終位置にないことを確認します。親指でスタータープーリーを緩め、プーリーが少なくとも反回転することを確認します。

破損したリコイルスプリングの交換

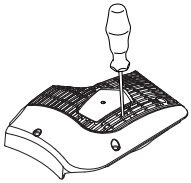
- プーリーの中心のボルトを外し、プーリーを取り外します。



- リターンスプリングが、スターターハウジング内でテンションが掛けられた状態であることに注意してください。
- スプリングカセットを固定しているボルトを緩めます。



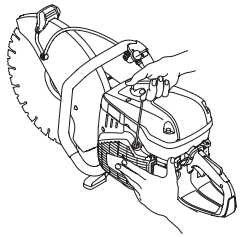
- ドライバーを使用して、スターターを回し、フックを緩めることで、リコイルスプリングを外します。フックは、スターター上のリターンスプリングアセンブリーを保持しています。



- リコイルスプリングに経由を塗布します。プーリーを取り付け、リコイルスプリングにテンションを掛けます。

スターターの取り付け

- スターターを取り付けるには、まずスターターロープを引き出し、スターターをクランクケースにあてがいます。次にプーリーに爪がかかるよう、スターターロープをゆっくりと戻します。



- ねじを締めます。

燃料システム

はじめに

- 燃料キャップとシール部に損傷がないことを確認します。
- 燃料ホースを点検します。損傷があるときは交換します。

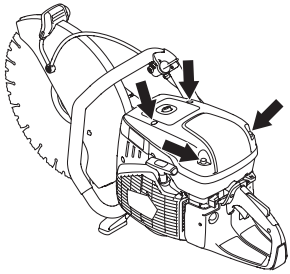
燃料フィルター

- 燃料フィルターは、燃料タンクの内部にあります。
- 燃料タンクは、給油時に不純物が入ることがないよう、保護する必要があります。これによって、タンク内の燃料フィルターが詰まることによって、動作上の障害が起きるリスクを減少させることができます。
- フィルターが目詰まりした場合は、清掃することはできません。新しいものと交換してください。**燃料フィルターは、少なくとも年に 1 度交換してください。**

エアフィルター

エンジンの力が落ちている場合、エアフィルターをまず点検する必要があります。

- ねじを緩めます。エアフィルターカバーを取り外します。

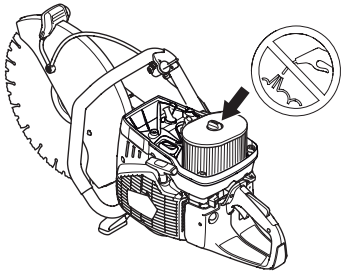


- エアフィルターを点検し、必要に応じて交換します。

エアフィルターの交換

> 注記!エアフィルターは、圧縮空気で掃除しないでください。フィルターを傷つけることがあります。

- ネジを外します。



- エアフィルターを交換します。

ドライブギア、クラッチ

- クラッチセンター、ドライブギア、およびクラッチスプリングに摩耗がないか点検します。

主要諸元

主要諸元	K970 II、K970 II Rescue
エンジン	
排気量、cm³/キュービックインチ	93.6/5.7
シリンダー内径、mm/インチ	56/2.2
シリンダー行程、mm/インチ	38/1.5
アイドリング回転数、r/min	2700
フルスロットルー負荷なし、r/min	9300（+/- 150）
出力、kW/hp @ r/min	4.8/6.5 @ 9000
イグニションシステム	
イグニションシステムのメーカー	SEM
イグニションシステムの型式	CD
スパークプラグ	Champion RCJ 6Y/NGK BPMR 7A
電極ギャップ、mm/インチ	0.5/0.02
燃料および潤滑システム	
キャブレターのメーカー	Walbro
キャブレターの型式	RWJ-7
燃料タンク容量、リットル/米国液量オンス	1/33.8
水冷却	
推奨水圧、バール/PSI	0.5-10/7-150

質量	**14 インチ（350 mm）**	**16 インチ（400 mm）**
燃料とカッティングブレードを除くパワーカッター本体、kg/ポンド	10.9/24.0	11.9/26.2

騒音排出（注記 1 を参照）		
音響パワーレベル、測定値 dB（A）	114	114
音響パワーレベル、L_{WA} dB（A）により保証	115	115
音量レベル（注記 2 参照）		
使用者聴覚での等価騒音レベル、dB（A）	104	104
等価振動レベル、a_{hveq}（注記 3 を参照）		
フロントハンドル、m/s²	3.9	3.4
リヤハンドル、m/s²	4.2	4.8

注記 1：環境における騒音排出は、EC指令 2000/14/EC に従って、音響パワー（L_{WA}）として測定しました。保証音響と計測音響の違いは、保証音響に計測結果のばらつきと、同じモデルの異なる個体間の変動が含まれているためです。これは指令 2000/14/EC に則っています。

注記 2：等価騒音レベルは EN ISO 19432 に則し、さまざまな作動状態における騒音レベルの時間加重エネルギーとして計算しています。報告データによれば、製品の等価騒音レベルの一般的な統計上のばらつき（標準偏差）は 1dB（A）です。

注記 3：等価振動レベルは EN ISO 19432 に則し、さまざまな作動状態における振動レベルの時間加重エネルギーとして計算しています。報告データによれば、等価振動レベルの一般的な統計上のばらつき（標準偏差）は 1m/s² です。

カッティング装置

カッティングブレード	最大切断深度、mm/インチ	最大周速、m/秒、フィート/分	出力シャフト最高回転数、r/min	ブレード最大厚さ、mm/インチ
14 インチ（350 mm）	125/5	90/18000	4700	5/0.2
16 インチ（400 mm）	145/6	100/19600	4700	5/0.2

主要諸元

EC 適合性宣言

（ヨーロッパにのみ適用）

Husqvarna AB（SE–561 82 Huskvarna, Sweden、電話：+46–36–146500）は、2014 年以降（年度は型式銘板のシリアル番号の前に記載）のシリアル番号のパワーカッター **Husqvarna K970 II、K970 II Rescue** が、以下の議会指令の要件を満たしていることを宣言します。

- 2006 年 5 月 17 日付「機械類に関する」**2006/42/EC**
- 2004 年 12 月 15 日付「電磁波適合性に関する」**2004/108/EC**
- 2000 年 5 月 8 日付「環境への騒音排出に関する」**2000/14/EC** 付録 V に従った適合性評価。

騒音排出に関する詳細は「主要諸元」の項を参照してください。

次の標準規格にも適合しています。**EN ISO 12100:2010、ISO 14982:1998、EN ISO 19432:2012**

試験機関：0404、SMP Svensk Maskinprovning 社（Box 7035、SE-750 07 Uppsala、スウェーデン）がハスクバーナ社のために、機械指令（2006/42/EC）に基づき 自主試験を実施しました。証明書の番号：SEC/10/2286

さらにSMP、Svensk Maskinprovning 社（Box 7035、SE-750 07 Uppsala、スウェーデン）が、2000 年 5 月 8 日付けの「環境への騒音排出に関する」評議会指令 2000/14/EC の付録 V に適合することも認定しました。証明書の番号：
01/169/032 - K970 II、K970 II Rescue

ハスクバーナ、2014 年 XX 月 XX 日

Helena Grubb

ハスクバーナ AB 建設機器担当副社長

（ハスクバーナ AB 正式代表兼技術文書担当）

取扱説明書（オリジナル）
1156524-79

2014/08/15 rev3